

スペシャルインタビュー

大人の休日の過ごし方

TOKYU HARVEST CLUB INTERVIEW

各界で活躍するゲストが過ごす「休日」をお聞きします。



vol.1 田崎 真也さん



vol.2 陣内 貴美子さん



vol.3 宮本 亜門さん



vol.4 溝口 肇さん



vol.5 落合 務さん



vol.6 鈴木 亨さん



vol.7 紫舟さん



vol.8 中嶋 朋子さん



vol.9 上村 愛子さん



vol.10 及川 正通さん



vol.11 茂山 七五三さん



vol.12 東儀 秀樹さん



vol.13 石井 竜也さん



vol.14 平野 啓一郎さん



vol.15 山本 寛斎さん



vol.16 山本 益博さん



vol.17 阿藤 芳樹さん



vol.18 秋川 雅史さん



vol.19 小松 長生さん



脚本家 倉本 聰さん 12月24日更新

vol.19 小松 長生(ちょうせい)さん

フルタイムで休みはなし！
なのに毎日楽しい、大人の休日。



自分のオフよりも、なによりも、重要なこと！

——— 地球規模のスケールでご活躍ですが、最近はどのようにお過ごしでしょうか？

11月に「コスタリカ国立交響楽団」の桂冠指揮者として2週間コスタリカへ滞在しまして、リハーサルそして2回の公演を。
それから帰国してすぐに僕の故郷福井県へ行き、4日間で7回の公演。これは教育プログラムの一環です。
そして昨夜は東京芸術劇場で「ベートーヴェンの交響曲第9番」の公演をいたしました。移動にリハーサルに公演と・・・連日休みがないですねえ。

——— 日本、東京へお帰りになっても「さあお休み！」とはならない。

そうですね、オフにはならない。完全なオフはありません。ずーーーーっと続いています。演じる曲は3カ月前から勉強に入りますが、下調べをしておくとかいろいろ立体的に考えて作っていきます。だから常に頭は動いていますね。もう、フルタイムで仕事をしています。

レーシングカーに例えると、コックピットに入ってタイヤを交換するのですが、エンジンはずっとかけたままで交換しているわけです。だから僕も頭のエンジンは止めずに、身体だけをメンテナンスしているって感じでしょうか。

妻もそれは一緒ですね。でもそこは、それは良いことだとお互いに認め合っています。

——— たいへんなお仕事ですが、その原動力となっているのはなんでしょう？

「他の人のお役に立つ」という事です。ほんの最近までは「自分、自分、自分」と、自分しか見えていませんでしたが今は、自分の好きな事をして「他の人のお役に立つ」。それが一番重要だと思っていますので、それができるならどんな事でも大変だとか思いませんし苦にもならない。自らがそういう人生を選んだのだと思っていますからね。



ガーツと集中するのが小松流、至福のひと時

——— 頭のエンジンがフルタイムで回転しているなかで、心がホッとする時はありますか？

やっぱり気の合う人たちと美味しい物を食べている時ですね。昨夜も公演の後、妻も一緒に、家の近所のお店でワイワイ楽しみました。

あ、対照的ですが1人の時間もとても重要です！勉強をずーっと、なんの中断もなく集中していると、それがホッとしますねえ。もうじーっと対象物から離れない。考えている事から離れない…というのが良いですねえ。

コスタリカでホテル住まいをしていた時も、途切れなく7時間8時間勉強に集中して。夜中は夜中でヘッドフォンをして、部屋に入れてもらっている電子ピアノを夜通し弾いていました。

お腹が空いたらサラダくらい食べて、疲れたら眠ってと。なんだか修道士のような感じですね。でも、ずーっと対象物に集中していられますから、楽しくて仕方がないのです！

——— 凡人には真似のできない集中力ですね！

僕、なんでも集中してガーッと行きますね(笑)

映画もね、もともと映画は大好きなのですが、今は自分の、指揮の勉強の一環として見えています。黒澤明監督や小津監督、北野武監督の作品は全部見えています。カット割りをどうするか、ここで音楽をどう使うとか。「アウトレイジビヨンド」などはどこでカットが変わるかとか、台詞とか、もうほとんど頭に浮かんできます。分析の対象として、映画はとても勉強になります。

大学の授業でも学生に、挿入曲を僕が指揮した「砂の器」を見せて中居君演じる英良がこの世に生まれてきた使命はなんだったのか」とか。音楽史なども教えますが、映画を活用していろいろな深い部分の分析をさせています。

そして美術。4~5年前に日本に帰って来てから、ガーッと。レンブラントなど、美術のDVDを何十本も見ている所です。これは僕が「美学芸術学科」卒業なのに学生時代は全然勉強しなかったのだからその罰が当たって、今勉強しているのです(笑)

そうそう TOEIC も去年受けて、1回目は時間切れで満点取れなかったから2回目を受けて、時間配分に気をつけて990点取りました！証明書もちゃんとありますよ。ドヤ顔して、部屋に貼ってあります(笑)



荒くれパイレーツの船長と、荒くれオーケストラの指揮者！

——— 東大を卒業なしてからアメリカの音楽大学へ。そこからはワールドワイドに活躍されています。

そうですね客演でたくさんの国を訪れましたし、暮らした場所もさまざまです。東京フィルハーモニー交響楽団の正指揮者をしている時はカナダから日本へ通っていましたが、カナダがとても寒かったから、寒い場所はもう御免！と、フロリダのオーランドに住んでいた事もあります。快適でしたよ(笑)

——— そして中央アメリカのコスタリカへ通われるなど、ダイナミックな行動力がおありですね。

僕の実家は福井県三国町崎で、祖父は明治の末まで北前船の船主、船頭をしていました。

まあ海賊ですからね(笑)知らない土地、違う文化の土地へ出て行って仕事をするわけです。同じ所に留まらずにいろいろな土地へ出て行って仕事をするのは、指揮者と似ているなあと。

クルーメンバーも北前船は7人で動いていたわけですが、信頼のおけるチームで動くというのも、僕の仕事のチームと共通していますね。

——— では小松さんが北前船でいうところの船頭さん、と言う事でしょうか？

そうです。全くそのとおりです！船頭は寄港すると白足袋、袴に着替えて迎えの小舟に乗り移る。丘に上がるのは船頭1人です。そこでさまざまな状況を読んで積荷をはじめ、全てを決めていく。

指揮者に似ていると思います。指揮者もただ指揮をするだけでなく、プログラムを決めたり、独奏者は誰が良いかを決めたり、全てを考え判断しますから。

そして荒くれ。映画「パイレーツ・オブ・カリビアン」でも、乗組員たちは荒くれなのでみんなが怯えるんですけど、船長に会って「あ、やっとなり良い理解者に出会えた」みたいに一瞬安堵しますよね。でも本当は、一番荒くれなのが船長じゃないですか。船長が一番残酷で、悪いに決まっているのです(笑)

オーケストラの指揮者もそうですよ。オーケストラも荒くれで、その頭というのも荒くれではないかな？

——— 目の前のダンディな小松さんは、とても荒くれには見えませんが(笑)

いやいや、今日はめずらしくきちんと背広を着ているだけで…。普段の僕は大学へ講義に行く時も、リハーサル着も京都の「うさと」さんの作務衣を愛用しています。とても

素晴らしい服で、コスタリカへ行った時も羨ましがられるほどなのですが、雪駄はボロボロになっても履き続けるものだから、妻に捨てられたりして(笑)

そのうえ「たるんだ歩き方をしていると駄目になる！」と一括されたり。

僕は「えー？僕は、ずっと後ろ姿で仕事してきているのになあ」なんて(笑)



愛妻家はどんな駄目出しにも、楽しく嬉しく応えます。

——— 奥さま(ヴォーカリスト)のお話をされている時は、ほんとうに嬉しそうです！

そうですね、妻に「うわー」と言われるのも安らぎのひとつですから(笑)

いつもの僕は他人に指図ばかりしている、一方通行の多い仕事です。リハーサル中に私語する人なんか1人も居ないし、僕が口を開くとみんな「しん！」とするわけです。それが家に帰ると「うわー」って、駄目出しです(爆笑)。ま、それも良いかな。

——— そんなに駄目出しが出るのですか(笑)

僕がいれたコーヒーの味で、「心が乱れている！」と言い当てられたり(笑)

妻は松任谷由実さん、久保田利伸さん、桑田佳祐さん、石井竜也さんなど、天才肌のかたばかりと仕事をしてきた人です。そのためか駄目出しのどれもが言いがかりなどではないし、どれも凄いのです！お互いに適当な事は言わないと解っていますし、それが良いのですね。

今朝は妻も大阪の方へ仕事に行くというので、お互い戦争のような状態で支度をして出て来ました。2人とも仕事が忙しいのですれ違いも多いのですが、家に居る時は妻の友達がよく来ていて賑やかですよ。皆さん、凄い存在感で私は居るか居ないかわからない透明人間のよう。それがまた良いんです(笑)

—— 伺っているこちらまで楽しくなる、素敵なお夫婦ですね(笑)。笑っているうちに元気がでました。

そんなに言っていたいただけると嬉しいなあ。お話して良かった～(笑)

ほんとうに「わー」という時間も楽しいし。1人で勉強に集中している時間も楽しいですねえ。

「トランペット吹きの日」という曲があるのですが、前は「なんで休みなのにトランペットを吹くのだろう?」と思っていたのですが、今はわかります。

休日って「なにもしない」事ではなく「好きな事を楽しくやっている」のが休日。大好きなトランペットを吹いているから、明るく楽しい曲なのです。

僕もなりたかった指揮者になって「他の人のお役に立つ」。天命ですね。だから、こんなに楽しい日々はありません。まさに毎日が「大人の休日」です！



インタビュー後記

指揮者として曲想をどこまでも追い求める真摯な時間と、奥さまの駄目出しを嬉しく受け止める愛妻家の時間。どのお話も、なんとも言えずチャーミングなお人柄と相まって楽しく語っていただきました。

2014 年もスイスやオランダの公演などスケジュールが埋まっていますが「今まで指揮した曲目を、もっともっと深めて行きたい」と。ますますのご活躍が楽しみです。

小松 長生(ちょうせい)さん

福井県生まれ。東京大学美学芸術学科卒。イーストマン音楽院大学院指揮科卒。1985 年エクソン指揮者コンクール優勝。これまでにモントリオール響、ケルン放送響、ザルツブルク音楽祭、プラハ放送響、北ドイツフィル、ボリショイ劇場、キエフ国立オペラ、ソウルフィル、モスクワ放送響、ヴェネズエラ国立響等を客演指揮。精力的な現代曲の紹介、教育プログラムのプロデュースや、五嶋みどり・龍、堤剛、ヒラリー・ハーン、ラン・ラン、小曾根真、レナート・ブルゾン、石井竜也、東儀秀樹らジャンルを超えたアーティスト達とのコラボレーションも注目を集めている。

2011 年 9 月、日本経済新聞社出版社より著書「リーダーシップは『第九』に学べ」を発売。2011 年 12 月には、ベートーヴェン『第 9』(新日本フィル、日本フィル他)、2012 年 4 月に米国ワシントン DC 桜寄贈 100 周年記念日米親善コンサートに出演、好評を博した。2013 年 4 月にはベルリン・フィルハーモニー・デビューを博す。

現在、コスタリカ国立交響楽団桂冠指揮者及びセントラル愛知交響楽団名誉指揮者。金城学院大学教授。音楽藝術学博士。